



Title	米田信子教授 略歴・研究業績
Author(s)	
Citation	スワヒリ&アフリカ研究. 2024, 35, p. 1-10
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/95316
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

米田信子教授 略歴・研究業績

【略歴】

- 1979. 3 岡山県立岡山大安寺高等学校卒業
- 1979. 4 松蔭女子学院大学 文学部英米文学科入学
- 1983. 3 同卒業
- 1993. 4 神戸市外国語大学大学院 外国語学研究科修士課程入学
- 1995. 3 同修了
- 1995. 4 東京外国語大学大学院 地域文化研究科博士後期課程入学
- 2000. 3 同修了
- 2001. 4－2002. 3 大阪女学院短期大学 英語科 特任講師
- 2002. 4－2004. 3 大阪女学院短期大学 英語科 准教授
- 2004. 4－2008. 3 大阪女学院大学 国際・英語学部 准教授
- 2008. 4－2008. 9 大阪女学院大学 国際・英語学部 教授
- 2008. 10－2010. 3 大阪大学 世界言語研究センター 准教授
- 2010. 4－2012. 3 大阪大学 世界言語研究センター 教授
- 2012. 4－2022. 3 大阪大学大学院 言語文化研究科 教授
- 2022. 4－2024. 3 大阪大学大学院 人文学研究科 教授

【学位】

- 1983. 3. 文学士（松蔭女子学院大学）
- 1995. 3. 国際関係学修士（神戸市外国語大学）
- 2000. 3. 博士（学術）（東京外国語大学）

【主な研究業績】

著書

1. 2022. 『アフリカ諸地域 ～20世紀』（岩波講座『世界歴史』第18巻）. 東京：岩波書店.
永原陽子（編）他10名との共著. 担当章：「歴史言語学から見るバントゥ系民族の移動」.
2. 2019. *Descriptive Materials of Morphosyntactic Microvariation in Bantu*. Fuchu: Research Institute
for Languages and Cultures of Asia and Africa. Shinagawa, Daisuke and Yuko Abe (eds.) 他 8 名
との共著. 担当章：‘Ganda’ (Judith Nakayiza との共著), ‘Matengo’.
3. 2018. *Levels in Clause Linkage: A crosslinguistic survey*. Berlin: de Gruyter Mouton. Tsunoda,
Tasaku (ed.) 他 12 名との共著. 担当章：‘Herero’.

4. 2016. 『ナミビアを知るための 53 章』 東京：明石書店. 水野一晴・永原陽子（編）他 29 名との共著. 担当章：「多言語国家ナミビアの言語」「多言語主義と英語」「教育現場の言語」「ナミビアの出版事情」「ヘレロ語を話す人々」「エネルギーな町カトゥトゥラ」.
5. 2012. 『アフリカ諸語文法要覧』 広島：溪水社. 塩田勝彦（編）他 17 名との共著. 担当章：「バントゥ諸語概説」（小森淳子・神谷俊郎との共著）, 「ヘレロ語」「マテング語」.
6. 2012. 『Sounds Great ～英語リダクションをリスニング中心に～』 東京：英宝社. 今井由美子・平岩葉子・Paul Evans との共著.
7. 2012. 『ボツワナを知るための 52 章』 東京：明石書店. 池谷和信（編）他 33 名との共著. 担当章：ヘレロ語を話す人びと—ヘレロ人とンバンデル人—.
8. 2010. 『Sounds Make Perfect 英語音声学への扉～発音とリスニングを中心に～』 東京：英宝社. 今井由美子・井上球美子・井上聖子・大塚朝美・高谷華・上田洋子との共著.
9. 2008. 『アクション別フィールドワーク入門』 京都：世界思想社武田丈・亀井伸孝（編）他 12 名との共著. 担当章：「多言語社会のゆくえをのぞむ」.
10. 2006. *Vocabulary of the Matengo Language*. Fuchu: Research Institute for Languages and Cultures of Asia and Africa.
11. 2006. *Bibliography of African Language Study: ILCAA 1964-2006*. Fuchu: Research Institute for Languages and Cultures of Asia and Africa. Ryohei Kagaya との共編.
12. 2004. 『Phonetics in Context 英語音声学の基礎：理論と実践』 東京：北星堂書店. 大塚朝美・井上球美子・今井由美子・上田洋子との共著.

論文

1. Forthcoming. 'Information structure, Topic and focus.' In: Marten, L., N. C. Kula, J. Zeller, and E. Hurst (eds.) *The Oxford Guide to the Bantu Languages*. Oxford: Oxford University Press. (Yukiko Morimotoとの共著) .
2. Forthcoming. 'Matengo.' In: Marten, L., N. C. Kula, J. Zeller, and E. Hurst (eds.) *The Oxford Guide to the Bantu Languages*. Oxford: Oxford University Press.
3. 2024. 'Micro-variation of noun-modifying constructions in Bantu languages.' In: Marten, L., R. Guérois, H. Gibson, and E. Bloom-Ström (eds.) *Morphosyntactic Variation in Bantu*. Oxford: Oxford University Press.
4. 2024. 'Multiple-object constructions in Ganda (JE15).' In: Gibson, H., R. Guérois, G. Mapunda, and L. Marten (eds.) *Morphosyntactic Variation in East African Bantu languages*. Berlin: Language Science Press. 3-37. (Judith Nakayizaとの共著)
5. 2023. 「状態変化動詞と事象の所有一経験主の語彙表示をめぐる」 岸本秀樹・臼杵岳・于一楽（編）『構文形式と語彙情報』 東京：開拓社. 280-303. (今泉志奈子・藤縄康弘・高橋美穂との共著)

6. 2022. 'Noncausal/causal verb alternations in Swahili.' *Linguistique et Langues Africaines*.8(2)
<https://journals.openedition.org/lla/4561>.
7. 2022. 「バントゥ諸語の参照文法書ーバントゥ諸語研究における参照文法書の位置づけ」
渡辺己・澤田英夫（編）『参照文法書研究』アジア・アフリカ言語文化研究別冊 2, 213-
255.
8. 2021. 「新しいアフリカ言語研究」『アフリカ研究』100, 67-72. （大野仁美・河内一博・中
川裕・亀井伸孝・森壮也・宮本律子との共著）
9. 2021. 「ヘレロ語の名詞の声調（Bantu R31）」梶茂樹（編）『アフリカ諸語の声調・ア
クセント』府中：東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所. 279-301.
10. 2021. 「スワヒリ語における「関係節」と体言化」鄭聖汝・柴谷方良（編）『体言化理論
と言語分析』吹田：大阪大学出版会. 429-458.
11. 2019. 「ヘレロ語のとりたて表現」野田尚史（編）『日本語と世界の言語のとりたて表現』
東京：くろしお出版. 237-253.
12. 2019. 'Contact-induced language divergence and convergence in Tanzania: Forming new varieties
as language maintenance.' *Swahili Forum*, 26, 181-204. （Sayaka Kutsukake との共著）
13. 2018. 'Functions of verb reduplication and verb doubling in Swahili.' *The Journal of Asian and
African Studies*, 96, 5-27. （Hannah Gibson との共著）
14. 2018. 'Noun-modifying constructions in Swahili and Japanese.' In: Pardeshi, Prashant and Taro
Kageyama (eds.) *Handbook of Japanese Contrastive Linguistics* (Handbooks of Japanese language
and linguistics 6). Berlin: de Gruyter Mouton. 433-452.
15. 2017. 'Conjoint/disjoint distinction and focus in Matengo (N13).' In: Hyman, Larry and J. van der
Wal. (eds.) *The Conjoint/Disjoint Alternation in Bantu*. Berlin: de Gruyter Mouton. 426-452.
16. 2017. 「日本語の視点からアフリカ諸語を見るー日本語とバントゥ諸語の対照研究ー」
『適塾』50, 45-52.
17. 2017. 「ヘレロ語とスワヒリ語の限定を表すとりたて小辞に関する試論」『スワヒリ&ア
フリカ研究』28, 72-90.
18. 2016. 'Event integration patterns in Herero: The case of motion event components.' *Asia and Africa
Languages and Linguistics*, 10, 219-244.
19. 2016. 「スワヒリ語における『～ハ～ガ』構文および類似した構文について」『スワヒリ
&アフリカ研究』27, 17-36.
20. 2015. 「スワヒリ語における有対動詞：派生の形式と動詞の意味を中心に」パルテシ，プ
ラシャント・ハイコ ナロック・桐生和幸（編）『有対動詞の通言語的研究』東京：く
ろしお出版. 351-368.
21. 2015. 「スワヒリ語の場所格の主題化」『日本語学』34(12), 68-76.
22. 2014. 「バントゥ諸語における自他動詞の派生関係ースワヒリ語・マテンゴ語・ヘレロ語
の場合ー」『スワヒリ&アフリカ研究』25, 54-65.

23. 2014. 「バントゥ諸語における名詞修飾節の形式と意味」 益岡隆志・大島資生・橋本修・堀江薫・前田直子・丸山岳彦（編）『日本語複文構文の研究』東京：ひつじ書房. 617-643.
24. 2012. 「アフリカにおける識字を考える」『ことばと社会』14, 43-66.
25. 2012. 「ヨーロッパ発『多言語主義』とアフリカの多言語状況」砂野幸稔（編）『多言語主義再考—多言語状況の比較研究』東京：三元社. 118-141.
26. 2012. 「スワヒリ語における2種類の関係節」 *CLAVEL*, 2, 13-26.
27. 2012. 「スワヒリ語のアクセント—アクセントフレーズを中心に—」 原口庄輔（編）『自立調和的視点から見た音韻類型のモデル』（平成20年度～23年度科学研究費補助金研究成果報告書）139-148.
28. 2011. 'Word order in Matengo (N13): Topicality and informational roles.' *Lingua*, 121(5), 754-771.
29. 2011. 「ヘレロ語における動詞活用形の声調（バントゥ系, R31）」『スワヒリ&アフリカ研究』22, 109-131.
30. 2010. 「ヘレロ語における適用形構文と目的語の対称性」『アジア・アフリカの言語と言語学』4, 5-37.
31. 2010. 'Topical hierarchy and grammatical agreement in Matengo (N13).' In: Legère, K. and C. Thornell (eds.) *Bantu Languages Analyses, Description and Theory*. Köln: Rüdiger Köppe Verlag. 313-323.
32. 2010. "'Swahilization" of ethnic languages in Tanzania: The case of Matengo.' *African Study Monographs*, 31(3), 139-148.
33. 2009. 'Information Structure and Sentence Formation in Matengo.' In: Pak, Manghyu (ed.) *Current Issues in Unity and Diversity of Languages*. (Collection of the paper selected from CIL18) Seoul: Linguistic Society of Korea. 443-453.
34. 2009. 「動き続けるアフリカ諸語—ナミビアの言語事情」梶茂樹・砂野幸稔（編）『アフリカのことばと社会』東京：三元社. 459-482.
35. 2009. 「マテング語の動詞活用形と焦点」『スワヒリ&アフリカ研究』20, 148-164.
36. 2009. 「言語を『選択する』ということ—アフリカにおける母語教育と言語権について考える—」 *Mwenge*. 39, 16-20.
37. 2008. 「マテング語の情報構造と語順」『言語研究』133, 107-132.
38. 2008. 「ナミビアのアフリカ諸語—言語態度と言語権を中心に—」 米田信子（編）『南部アフリカ少数言語の教材開発および保護のための記述研究』（平成18年度～19年度科学研究費補助金研究成果報告書）. 1-16.
39. 2008. 「母語は『使いたい言語』か？—ナミビアの言語権」『言語』32(2), 40-45.
40. 2007. 「マテング語の擬人化とイメージ付与」『スワヒリ&アフリカ研究』18, 109-126.

41. 2007.「レキシカルな韻律とフレーザルな韻律の関係—日本語共通語・新見市方言・中国語・マテング語の対照—」定延利之・中川弘之（編）『音声文法の対照』東京：くろしお出版. 15-53.（定延利之・友定賢治・朱春躍との共著）
42. 2007.「ナミビア：アフリカ諸語教育の新たな段階—Upgrading African Languages Project の報告を中心に—」『スワヒリ&アフリカ研究』17, 145-155.
43. 2006.「マテング語における『現在』と『未来』—2 種類の時間境界—」中川弘之・定延利之（編）『言語に現れる「世間」と「世界」』東京：くろしお出版. 129-151.
44. 2006.「マテング語の『補完語』と情報構造」加藤重弘・吉田浩美（編）『言語研究の射程』東京：ひつじ書房. 189-211.
45. 2005. 'Tone patterns of Matengo nominals.' In: Kaji, Shigeki (ed.) *Cross-linguistic Studies of Tonal Phenomena: Historical Development, Tone-Syntax Interface, and Descriptive Studies*. 東京：東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究. 393-409.
46. 2005.「ナミビアの多言語使用—アフリカ諸語をめぐる新たな動き—」梶茂樹・石井溥（編）『アジア・アフリカにおける多言語状況と生活文化の動態』（科学研究費研究成果報告書）157-171.
47. 2005.「独立ナミビアの多言語教育」『脱帝国と多言語化社会のゆくえ』（ことばと社会別冊 2）東京：三元社. 127-153.
48. 2004.「多言語社会における英語の位置づけ—タンザニア，ナミビア，ジンバブエの場合—」宮本律子（編）『現代アフリカ女性の開発プログラム参加と言語選択に関する学際的研究』（科学研究費研究成果報告書）19-32.
49. 2004.「マテング語の主題—他のバンツ語諸語との比較から—」益岡隆志（編）『主題の対照』東京：くろしお出版. 171-190.
50. 2003.「マテング語における不可譲渡名詞の状態表現」『スワヒリ&アフリカ研究』13, 125-137.
51. 2003.「マテング語における借用語と単語取替え」梶茂樹（編）『地方語と共通語における借用語の動態関係—アフリカとインドネシアの場合—』（環太平洋の「消滅に瀕した言語」に関する緊急調査研究成果報告集 B009）ELPR Publications. 31-49.
52. 2003.「マテング語に見られる“母音挿入”」『大阪女学院短期大学紀要』32, 23-39.
53. 2002.「多言語国家における教育と言語政策—独立ナミビアの事例から—」宮本正興・松田素二（編）『現代アフリカの社会変動—言葉と文化の動態観察』京都：人文書院. 150-169.
54. 2002.「ンデンドウレ語の音韻概要」『スワヒリ&アフリカ研究』12, 129-145.
55. 2001.「ナミビアの教育言語政策」『アフリカレポート』33, 22-26.
56. 2001.「マテング語における単語の取り替え」『アジア・アフリカ文法研究』29, 93-99.
57. 2000.「『現在』時制におけるマテング語の静態動詞」『アジア・アフリカ文法研究』28, 41-54.

58. 2000. 「マテンゴ語の他動詞と自動詞に関する試論—形態による分類を中心に」 『スワヒリ&アフリカ研究』 10, 183-198.
59. 1999. 「マテンゴ語動詞の声調（バンツー系，タンザニア）」 『アジア・アフリカ言語文化研究』 57, 133-155.
60. 1997. 「民族語に対する言語政策とその影響—タンザニアの事例から—」 田中克彦・山脇直司・糟谷啓介（編）『言語・国家，そして権力』（ライブラリ相関社会科学 4）東京：新世社. 318-335.
61. 1997. 「民族語に対するタンザニアの言語政策」 『スワヒリ&アフリカ研究』 7, 34-50.
62. 1997. 「ヘレロ語適用形の機能について」 『アジア・アフリカ言語文化研究』 53, 123-136.
63. 1996. 'The impact of the diffusion of Kiswahili on ethnic languages in Tanzania: A case study of Samatengo.' Hino, Shun'ya (ed.) *African Urban Studies*. IV, Tokyo: Research Institute for Languages and Cultures of Asia and Africa. 29-93.

その他(研究ノート、資料、報告、事典項目等)

1. 2016. 「総説一言語・言語学」 日本アフリカ学会（編）『アフリカ学事典』東京：昭和堂. 110-113. (小森淳子との共著) 【事典の項目】
2. 2015. 「スワヒリ語の基礎語彙集試案」 『スワヒリ&アフリカ研究』 26, 119-137. (小林晋・牧野友香・小野田風子・中垣友江との共著) 【研究ノート】
3. 2014. The World Atlas of Transitivity Pairs (WATP) 'Herero', 'Matengo', 'Swahili' <https://watp.ninjal.ac.jp/en/downloads/> (2022.3. updated) 【資料】
4. 2011. 「アフリカの言語」 『アフリカ研究』 78, 43-60. (若狭基道・塩田勝彦・小森淳子・亀井伸孝との共著) 【講座】
5. 2009. 「ヘレロ語」 梶茂樹・中島由美・林徹（編）『事典 世界のことば』東京：大修館書店. 518-521. 【事典の項目】
6. 2006. 「子育ては女性みんなで—スワヒリ語」（世界の幼児語と子育て）『言語』 9 月号 【専門誌特集記事】
7. 2004. 「英語科で『アフリカ』を教える」 『アフリカ研究』 日本アフリカ学会創立40周年記念特別号. 【報告】
8. 2002. 『モザンビークと 2000 年の大洪水』 (*Mozambique & The Great Flood of 2000* Frances Christie & Joseph Hanlon 著 Oxford Univ. 2001) 東京：(財) 国際開発センター. 【共訳】
9. 2000. 「マテンゴ」, 「ンデンデウレ」, 「ダマラ」 綾部恒雄・大塚和夫・木村秀雄・黒田悦子・小西正捷・小松久男・須藤健一・谷泰・日野舜也・横山廣子（編）『世界民族事典』東京：弘文堂. 【事典の項目】
10. 1998. 「東アフリカ言語社会文献目録」 『スワヒリ&アフリカ研究』 8, 156-167, (中島久・竹村景子・小森淳子・稗田乃との共著) 【資料】

学会・シンポジウム・国際会議等口頭発表

1. 2023.12.10. 'Traces of Indian Ocean trade in the Swahili language.' INDOWS International Symposium: Currents of Metamorphosis across the Indian Ocean. 大阪大学.
2. 2022.6.8. 'Degrees of definiteness in Swahili locative constructions.' The 9th International Conference on Bantu Languages. マラウイ大学, ブランタイヤ, マラウイ共和国.
3. 2021.11.21. 「湯川データ : 120 を超えるバントゥ諸語の並行的データ」 日本言語学会第 163 回大会ワークショップ「最後のアナログ言語調査資料 : 危機に瀕した言語データの発掘と救出」 オンライン.
4. 2021. 6.9. 'Inchoative / Causative verb alternations in Swahili.' 10th World Congress of African linguistics. ライデン大学, オランダ. オンライン.
5. 2021. 6.3. 'Non-locative uses of locative enclitics in Herero (R31).' The 8th International Conference on Bantu Languages. エセックス大学, 英国. オンライン.
6. 2021.5.26. 'Properties of the Subject in Bantu Languages.' JSPS-FWO Joint Project Kick off Meeting. ゲント大学, ゲント, ベルギー／東京外国語大学. オンライン.
7. 2021.2.21. 「スワヒリ語の『限定』を表すとりたて表現」 Prosody & Grammar Festa 5. 国立国語研究所. オンライン.
8. 2020.5.23. 「バントゥ諸語のマイクロバリエーション研究とは? (新しいアフリカ言語研究 3:バントゥ諸語のマイクロバリエーション研究)」 日本アフリカ学会第 57 回学術大会.
9. 2018.11.22. 'Proto-Bantu subject and topic.' International Conference on Reconstructing Proto-Bantu Grammar. ゲント大学, ベルギー. (Yukiko Morimoto との共同発表)
10. 2018.8.26. 'Multiple object constructions in Ganda (JE15).' The 9th World Congress of African Linguistics. ムハンマド 5 世大学, ラバト, モロッコ王国. (Judith Nakayiza との共同発表)
11. 2018.8.25. 'Cross-Bantu Variation in the Properties of Subjects.' The 9th World Congress of African Linguistics. ムハンマド 5 世大学, ラバト, モロッコ王国. (Yukiko Morimoto との共同発表)
12. 2018.7.10. 'Degrees of Topicality in Bantu Subjects.' The 7th International Conference on Bantu Languages. The River Club Mowbray Cape Town, ケープタウン, 南アフリカ共和国. (Yukiko Morimoto との共同発表)
13. 2018.7.9. 'Exclusive particles 'only' in Swahili - *tu* and *peke yake*-' The 7th International Conference on Bantu Languages. The River Club Mowbray Cape Town, ケープタウン, 南アフリカ共和国. (Kumiko Miyazaki との共同発表)
14. 2018.7.5. 'Exclusive focus sensitive particles in Herero (Bantu R31).' The 20th International Congress of Linguists. The Cape Town International Convention Centre, ケープタウン, 南アフリカ共和国.
15. 2018.5.27. 「スワヒリ語ザンジバル方言における移動動詞としての *pandisha* と *shusha*—季節風による「上下」の関係—」 日本アフリカ学会第 55 回学術大会. 北海道大学. (初田 漠との共同発表)

16. 2015.7.24. 'How African languages fit in Talmy's typology of event integration.' The 13th International Cognitive Linguistics Conference. ノーザンブリア大学, ニューカッスル, 英国.
(Kawachi, Kazuhio, Y. Abe, O. Hieda, K. Koga, J. Komori, H. Yoshino との共同発表)
17. 2017.6.23. 「スワヒリ語と民族語の言語接触による文法レベルの影響」 ワークショップ
「スワヒリ語圏アフリカにおける多言語状況の実態—言語接触状況下での多様な言語現象から捉える—」 日本言語学会第 154 回大会. 首都大学東京.
18. 2017.5.20. 「ガンダ語の多重目的語構文—3 つの目的語の現れ方—」 日本アフリカ学会第 54 回学術大会. 信州大学.
19. 2017.2.19. 「バントゥ諸語の名詞修飾構文—意味関係と形式」 Prosody and Grammar Festa. 国立国語研究所.
20. 2016.12.3. 「バントゥ諸語の関係節に見られるマイクロバリエーション」 日本言語学会第 153 回大会. 福岡大学.
21. 2016.6.22. 'Noun-modifying construction: the forms and the head-modifier relation.' The 6th International Conference on Bantu Languages. ヘルシンキ大学, フィンランド.
22. 2016.5.20. "'Swahilization' of Bantu languages in Tanzania: The case of Matengo.' International Workshop on Morphosyntactic Variation in Bantu: Typology, Contact and Change. ロンドン大学 SOAS, 英国.
23. 2016.5.3. 'Forms and functions of noun modifying clauses in Bantu languages.' Linguistics Departmental Seminar. ロンドン大学 SOAS, ロンドン, 英国.
24. 2015.8.23. 'The integration patterns of motion event components in Herero (Bantu, R31).' The 8th World Congress of African Linguistics. 京都大学.
25. 2015.1.25. 'Motion expression patterns in African languages.' NINJAL International Symposium on Typology and Cognition in Motion Event Description. 国立国語研究所. (Kawachi, Kazuhiro, Y. Abe, O. Hieda, K. Koga, J. Komori, & H. Yoshino との共同ポスター発表)
26. 2015.7.24. 'How African languages fit in Talmy's typology of event integration.' The 13th International Cognitive Linguistics Conference. ノーザンブリア大学, ニューカッスル, 英国. (Kawachi, Kazuhio, Yuko Abe, Osamu Hieda, Kyoko Koga, Junko Komori, Hiroshi Yoshino との共同発表)
27. 2014.11.15. 「ヘレロ語 (バントゥ R31) における語のプロソディと文レベルの現象」 日本言語学会第 149 回大会. 愛媛大学.
28. 2014.3.1. 'Conjoint/disjoint distinction in Matengo (N13).' The 2nd International Workshop on Bantu Languages. ロンドン大学 SOAS, 英国.
29. 2013.5.25. 「スワヒリ語におけるアクセント・フレーズ」 日本アフリカ学会第 50 回学術大会. 東京大学駒場キャンパス.
30. 2012.11.11. 'Noun-modifying clauses in Bantu languages.' The 1st International Workshop on Bantu Languages. 大阪大学中之島センター.

31. 2011.2.22. 'Nominal modifying clauses in Swahili: relative clauses and PCd+INF.' ロンドン大学言語学コロキウム. ロンドン大学 SOAS, 英国.
32. 2010.11.27. 「スワヒリ語における『外の関係』の関係節」 日本言語学会第 141 回大会. 東北大学.
33. 2010.10.31. 'Relative clauses in Swahili-Internal relation and external relation.' International Workshop on Clause Combining. 東京外国語大学.
34. 2010.8.24. 'Relative clauses in Swahili: Contrastive study with Japanese.' The 40th Colloquium on African Languages and Linguistics. ライデン大学, オランダ.
35. 2010.6.27. 「ヘレロ語の声調体系（バントゥ諸語, R31）—名詞と動詞の声調型を中心に—」 関西言語学会第 35 回大会. 京都外国語大学.
36. 2010.2.19. "Swahilization" of HLT (Heritage Languages of Tanzania): The case of Matengo.' The 1st International Conference on Heritage/Community Languages. カリフォルニア大学ロサンジェルス校, ロサンジェルス, 米国.
37. 2009.9.21. 'Tone patterns of Herero nominals.' Academy UK-Africa Partnership: Workshop on Languages and Linguistic Studies of Southern African Languages. ボツワナ大学, ハボロネ, ボツワナ共和国.
38. 2009.8.19. 'Object a/symmetry and animacy hierarchy in Herero. (Bantu, R31).' The 6th World Congress of African Linguistics. ケルン大学, ドイツ.
39. 2009.6.6. 「マテンゴ語におけるフォーカス標示と解釈の不一致」 関西言語学会第 34 回大会. 神戸松蔭女子学院大学.
40. 2009.3.26. 'The conjoint/ disjoint verb form and focus in Matengo.' The 3rd International Conference on Bantu Languages. ベルギー王立中央アフリカ博物館, テルビュール, ベルギー.
41. 2009.2.19. 「ヘレロ語名詞の声調：声調パターンと現れ方（Bantu, R31）」 第 4 回音韻論フェスタ. KKR ホテル熱海.
42. 2008.11.29. 「バントゥ諸語における適用形動詞の類型と目的語対称性」 日本言語学会第 137 回大会. 金沢大学. (品川大輔との共同発表)
43. 2008.7.25. 'Information structure and sentence formation in Matengo.' The 18th International Congress of Linguists. 高麗大学, ソウル, 韓国.
44. 2008.6.1. 「アフリカ諸語による教育と言語権—母語教育のゆくえをのぞむ—」 日本文化人類学会第 42 回研究大会. 京都大学.
45. 2008.5.25. 「ヘレロ語名詞の声調」 日本アフリカ学会第 45 回学術大会. 龍谷大学.
46. 2008.3.8. 'Word Order and Information Structure in Matengo (N13).' International Conference on Movement and Word Order. ライデン大学, オランダ.
47. 2007.10.4. 'Topical hierarchy and grammatical agreement in Matengo (Bantu N13).' The 2nd International Conference on Bantu Languages. ヨーテボリー大学, スウェーデン.

48. 2006.8.30. 'The Information Structure and Word Order in Matengo.' The 35th Colloquium on African Languages and Linguistics. ライデン大学, オランダ.
49. 2006.3.3. 'Topicalization and the Information Structure in Matengo.' Museum Seminar on African Languages and Cultures. ベルギー王立中央アフリカ博物館, テルビュールン, ベルギー.
50. 2005.5.28. 「ナミビアの言語政策：新しい動き」 日本アフリカ学会第 42 回学術大会. 東京外国語大学.
51. 2004.12.16. 'Tone patterns of Matengo nominals.' International Symposium on Tone: Cross-Linguistic Studies of Tonal Phenomena. 東京外国語大学.
52. 2003.10.26. 「ナミビアの言語問題—多言語教育の実情と課題—」 国際シンポジウム Post-Empire and Multilingual Societies in Asia and Africa. (脱帝国と多言語化社会のゆくえ—アジア・アフリカの言語問題を考える). 東京外国語大学.
53. 2003.7.27. 「バンツ諸語の主題：マテンゴ語の主題化を中心に」 言語対照シンポジウム—「主題」をめぐって—. 神戸ユニティー.
54. 2003.6.1. 「ジンバブエの言語“ナショナリズム”」 日本アフリカ学会第40回学術大会, 島根大学.
55. 2003.3.14. 「英語に対する方針と言語態度—タンザニア・ナミビア・ジンバブエの例—」 アジア・アフリカにおける政治文化の動態「言語共同体と言語政策」シンポジウム, 東京外国語大学.
56. 2001.5.27. 「ナミビアの教育言語政策」 日本アフリカ学会第 38 回学術大会, 名古屋大学.
57. 2000.12.25. 'Swahilization of ethnic languages in Tanzania.' International Conference on Endangered Languages. 京都国際会館.
58. 1999.5.30. 「マテンゴ語に見る借用語の変容」 日本アフリカ学会第 36 回学術大会. 京都大学.
59. 1998.6.21. 「マテンゴ語動詞の声調」 日本言語学会第 116 回大会. 慶応義塾大学.
60. 1998.5.31. 「マテンゴ語：世代間に見られる母音の差」 日本アフリカ学第 35 回学術大会. 敬愛大学.
61. 1997.6.1. 「民族語に対するタンザニアの言語政策：現状と課題」 日本アフリカ学会第 34 回学術大会. 新潟国際情報大学.

学位論文

1. 2000. 『マテンゴ語の記述研究（バンツ系，タンザニア）—動詞構造を中心に—』 東京外国語大学に提出した博士論文
2. 1995. 『タンザニアにおけるスワヒリ語の浸透と民族語の現状：マテンゴ語の例をとおして』 神戸市外国語大学に提出した修士論文.